

「猛暑も災害」と提起!

熱中症搬送者の

7割以上が屋内で発症

平野市議が「熱中症患者の緊急搬送状況は」と質問したのに対して、消防本部は「今年の6～8月は83人。発症場所は屋内63人、屋外20人」と答弁しました。とくに76%が屋内で発症という事実、議場内でも驚きの声がありました。

死者は調査開始以来で最多

今年の夏の猛暑は異常で、天気予報のたびに「命の危険がある」と警告がくり返されました。消防庁は「7月の熱中症による死者は133人。これは調査開始以来で最多」と発表しています。

国は初めてエアコン購入に助成

別府市でも補助制度の検討を

こうした中で国は6月末、新規の生活保護申請者に限定ですが、「5万円を上限にエアコン購入を支援する」と発表。福島県相馬市は「生活保護に限定すべきではない」と、非課税世帯を対象に上限3万5千円の補助制度をつくりました。

平野市議は、「明らかに環境に変化が起きている。来年に向けて別府市でも、家庭用エアコンに補助制度を検討すべきでは」と提起しました。

保育所への障がい児の 受け入れ単価の引き上げを!

現行の障害児受け入れ加算制度には、重度（月額72,620円）と軽度（月額10,000円）があります。最近軽度（手帳なしも含む）の子どもが増え、受け入れ保育所を増やすためにも、軽度の加算額の改善が求められています。

平野議員は、「国は今年度から予算額を2倍（400億円から880億円）に増やしており、別府市の加算額を改善すべきでは」と提起。市は事前打ち合わせで、「今後、交付税措置の状況も踏まえ、財政当局とも協議し検討する」と答弁しました。



ススキ

訂正します

NO.738で鶴見保育所と内竈保育所の定員数が間違っていました。正しくは鶴見(90)、内竈(60)です。

「通院無料は未就学児まで」は 来年は 別府と大分だけに！

【国の全国調査結果】

	自治体数(%)
就学前まで無料	111(6.4%)
小学校卒業前まで	129(7.4%)
中学校卒業まで	1,023(58.8%)
高校卒業まで	474(27.2%)
大学卒業まで	4(0.2%)
計	1,741(100%)

(2017年4月1日現在)

別府市は「就学前まで」
全国でも少数派の自治体

平野市議は左のような全国調査結果を示して「別府市もせめて中学卒業までの(通院)医療費を無料に」と迫りました。市は「市単独での子ども医療費助成拡充は困難」と従来からの主張をくり返すだけでした。

別府市の「就学前まで」は全国でも少数派で、県内では来年7月から中津市と宇佐市が「中学卒業まで」に拡大しますので、残されたのは大分市と別府市だけになります。ちなみに豊後高田市、国東市、由布市は「高校卒業まで無料」です。

ある視覚障害者の訴えが実り

「点字ディスプレイ」が利用できるようになりました。

『ともに生きる条例』の 精神が生きる行政を

◆ある視覚障害者から、日常生活用具給付対象になっている「点字ディスプレイ」の申請をしたら、別府市は「市の要綱では視覚聴覚の重度重複障害が要件なので、視覚だけの単独障害では対象にならない」と言われた。大分市と扱いが違うのはなぜかと、平野市議に訴えがありました。

◆平野市議が大分市を調査したら、「大分市の要綱も別府市と同じだったが、国の給付要件が『単独障害でも給付できる』と変わっており、市要綱の改定を待たずに国の要件に従って給付した」とのこと。ところが別府市は「市の要綱を改定する来年4月まで待つてほしい」と対応していません。

◆9月議会で平野市議が『ともに生きる条例』のない大分市が障害者に対して柔軟に対応しているのに、『条例』第10条で、『市は、情報を取得または利用することが困難な障害のある人に対して、…機器の活用には、努めなければならない』と定めている別府市でなぜできないのか」とくり返し質問をするなかで、ようやく阿南副市長が「大分市と同様に対応したい」と答弁し、要綱改定前でも給付できるようになりました。